

§24. 複文と接続詞(4) — 条件 —

ここでは次のような表現を扱います。

- ・条件を表す従属節 ～と、～ば、～たら、～なら
 - ・条件に関連する接続詞 すると、それなら、それでは、では
- 条件とは、二つのことがら（前件と後件）の依存関係、すなわち、後件が前件に依存して起こるという関係を表すものです。

- (1) 携帯電話が { あると／あれば／あったら／あるなら }、いつでも連絡できます。

条件の表現に関して難しい点は上の四つの接続形式の使い分けなので、以下ではこの点に重点を置いて条件の表現を見ていくことにしましょう。

1. ～と

- (1) 3月の後半になると、桜が咲き始めます。
 (2) 毎朝起きると、紅茶を1杯飲みます。
 (3) お金を入れてボタンを押すと、切符が出てきます。

これだけは

<接続> 辞／否 + と

◆「～と」の基本的な用法は反復的・恒常的に成り立つ依存関係（Pが起これば通常Qが起こるという関係）を表すものです。自然現象 ((1)) や習慣

((2))、機械の操作と結果 ((3)) などがその典型的な例です。

◆「～と」は反復的・恒常的な依存関係を表すのが普通なので、後件に意志や希望・命令・依頼などの表現が来ることはありません。

- (4) a. ×桜が咲くと、花見に行くつもりだ。
 b. 桜が咲いたら、花見に行くつもりだ。
 (5) a. ×食事ができると、呼んでください。
 b. 食事ができたら、呼んでください。

もう少し

◆一方、「～と」は前件・後件とも既に起こったことがら（**事実的条件**）を表すこともできます。

- (6) 窓を開けると、冷たい風が入ってきた。
 (7) 田中さんにメールを送ると、すぐ返事が来ました。

(6)(7)はいずれも前件が契機となって後件が起こったという関係を表しています。これと似ているのが、**発見**と呼ばれる、前件の動きをした結果後件のことがらを発見したという関係を表す用法です。

- (8) デパートへ行くと、チョコレートが山積みになっていた。
 (9) 四つ角を曲がると、すぐ彼のマンションが見えた。

◆以上からわかるように、「～と」は仮定性が薄く、本質的には典型的な条件というより、二つのことがら間の継起関係を表す表現だと言えます。

このような「～と」の本質は、次のような、同じ主体の連続した動作を表す用法を持つことにも表れています。これは既に条件から外れた用法です。

- (10) 男は玄関に現れると、断りもせずに上がり込んできた。
 (11) 先生は教室に入ってくると、早速授業を始められました。

2. ～ば

- (1) ちりも積もれば山となる。
- (2) 品がよくて安ければ、よく売れます。
- (3) 試験に合格すれば、大学院生になれます。

これだけは

◆「～ば」の基本的な用法も恒常的な依存関係を表すことです。ことわざに代表されるような一般的法則によく用いられます。

◆「～と」と似ている面もありますが、「～ば」は「～と」と違って、**仮定条件**によく用いられます。

- (4) 明日もし雨が{○降れば／×降ると}、どうしますか。

もう少し

◆「～ば」の文では、原則として、後件に意志・希望・命令・依頼などの表現が来ることはありません。この点で後に述べる「～たら」とは異なります。

- (5) {×帰宅すれば／○帰宅したら}、必ずうがいをしなさい。

ただし、前件の述語が状態性の場合(6))、および前件と後件の主体が異なる場合(7))は例外となります。

- (6) わからないことがあれば、いつでも聞いてください。
- (7) 父が許してくれれば、彼と結婚するつもりです。

また、「～ば」の文では、「～と」と違って前件も後件も既に起こっている事実的条件を表すことはできません。

- (8) 注射を{×打ってもらえば／○打ってもらうと}、すぐ直りました。

◆「～ば」は、後件の成立が望まれているという文脈で、そのためにどんな

前件が必要かを述べるような文(前件に焦点のある条件文)には、最もふさわしい形式です。

- (9) A: どうすれば、服が安く買えますか。
B: バーゲンの時期まで待てば、安く買えますよ。

そのため、下の例の場合「～ば」と「～と」では意味に若干違いがあります。

- (10) このボタンを{押せば／押すと}、回数券が買えます。

回数券の買い方を尋ねられたときの答えとして普通用いられるのは「～ば」のほうで、「～と」を使うと一般に券売機の使い方を説明している感じがします。

◆上で述べた、前件に焦点のある条件を表す用法を持つことと関連することですが、「～ば」の文では後件に望ましいことがらがる事が多く、望ましくないことがらの場合は「～ば」は用いにくくなります。

- (11) 徹夜{?すれば／○すると／○したら}、体調が悪くなります。

逆に、前件に「さえ」などを伴って、後件が成立するための最低条件を示す用法は、「～ば」にしかありません。

- (12) お金さえ{○あれば／×あると／?あつたら}、遊んで暮らせる。

◆また、現実と異なることがらを仮定する条件(反事実的条件)の場合も、普通「～ば」が用いられます。

- (13) あと1,000円あれば、このコートが買えるのに。

3. ～たら

- (1) 雨が降ったら、キャンプは中止です。
- (2) 午後になったら、散歩に行きましょう。

これだけは

◆「～たら」は、特定の、一回的な依存関係を表すのが典型的な用法です。(1)(2)からわかるように、「～たら」は、(1)のように前件が成立するかどうかわからない場合(仮定条件)にも、(2)のように前件が成立することがわかっている場合(確定条件)にも用いることができます。このうち仮定条件の場合のみ「～ば」に置き換えることができます。

- (1) 雨が降れば、キャンプは中止です。(仮定条件)
(2) ×午後になれば、散歩に行きましょう。(確定条件)

◆「～たら」は後件に意志・希望・命令・依頼などが来る文でも用いることができます。

- (3) 山本さんに会ったら、よろしく伝えてください。

◆「～たら」は前件・後件ともに成立している事実的な条件を表すことができます。この点では「～と」と共通しています。

- (4) 窓を開けたら、冷たい風が入ってきた。

4. ～なら

- (1) A: 携帯電話を持っています。
B: 携帯電話があるなら、いつでも連絡できますね。
(2) A: スーパーへ行ってくるよ。
B: スーパーへ行くのなら、しょうゆを買ってきて。
(3) もしスーパーへ行くのなら、しょうゆを買ってきて。

これだけは

<接続> 置 + なら (ただし、Na・N~~な~~、Na・Nである+なら)

◆「～なら」の前に「の」(または「ん」)が入ることがありますが、ほとんど同じ意味です。話しことばでは「のだったら(んだったら)」になることもあります。

◆「～なら」は他の3形式とは大きく性格の異なるものです。

「～なら」の用法で最も典型的なのは、(1)(2)のように聞き手の発言を受ける用法です。この場合、聞き手の発言によって新しく知ったことが前件になり、それに基づく帰結が後件として述べられます。

(3)は純粹に話し手が仮定したことがらが前件になっていますが、後件がそれに基づく帰結であるという点では(1)(2)の例と変わりありません。

もう少し

◆「～なら」が他の3形式と違う点は、前件の述語にタ形と辞書形のいずれも用いることができるという点です。

- (4) a. 旅行に行ったのなら、写真を見せてください。
b. 旅行に行くのなら、カメラを持っていくといいですよ。

(4)aの場合、ことがらの前後関係は「前件→後件」の順ですが、bの場合は「後件→前件」です。「～と・～ば・～たら」の文と比べてみましょう。

- (5) 旅行に行くと、食欲が出る。
(6) 旅行に行けば、嫌なこともすっかり忘れる。
(7) 旅行に行ったら、昔の友達にばったり会った。

いずれの場合も「前件→後件」の順です。「～と・～ば・～たら」の文では必ず成り立つことがらの前後関係から「～なら」の文は自由であるわけですから、これは、「～と・～ば・～たら」を用いた条件の文が、ことがらとことがらの依存関係を示すのに対して、「～なら」の文は、あることがらを仮定することから導かれる帰結(話し手の判断)を後件に述べるものであるからです。

ただし、前件の述語が形容詞など状態性の場合には、「～なら」と他の3形式の違いは薄まり、4形式とも使える場合があります(意味は同じではありません)。このセクションの冒頭にも挙げた(1)はそのような例です。

◆話し手の判断は意志・命令などいろいろな形を取ります。従って、「～な

ら」の後件には、「～たら」と同じく、意志・希望・命令・依頼などの表現が可能です。ただし、上述のことからわかるように、両者を使った場合の文の意味は大きく異なります。

- (a) パリへ行ったら、おしゃれな靴を買おう
 b. パリへ行くなら、おしゃれな靴を買おう。

つまり、aでは「パリへ行く→靴を買う」という前後関係が表されるため「パリで靴を買う」ことになりますが、bでは上のような前後関係は表されず、靴を買う場所はパリとは限りません。同じく前後関係についての「～たら」と「～なら」の違いがわかりやすい例として次のようなものもあります。

- (9) (飲酒運転禁止の標語) 飲んだら、乗るな。乗るなら、飲むな。

「飲んだら」は「飲んだあとは」の意味になるのに対し、「乗るなら」は「乗るまえには」の意味になります。

5. 4形式の使い分け

「～と・～ば・～たら・～なら」のそれぞれの特徴を見てきましたが、これらを完全に把握して使い分けるのは簡単ではありません。以下に学習者が気をつけるべき最低限のポイントをまとめておきましょう。

これだけは

◆使える範囲が最も広いのは「～たら」です。したがって、最低限の知識として、「～たら」が使えない場合を知っておけば、不自然な文を作らずに済みます。

「～たら」が使えないのは、前件のことがらを仮定して後件にその帰結(話し手の判断、命令、希望、意志など)を述べる場合(「～なら」を使う場合)です。

- (1) 市役所へ行くなら、地下鉄が便利です。
 (2) 大学院に進むなら、この本を読みなさい。

このような場合に「～たら」を用いると、不自然な文になったり、意味が変わったりします。(2)は前件と後件の前後関係が(2)と変わってしまいます。

- (1) ×市役所へ行たら、地下鉄が便利です。
 (2) ×大学院に進んだら、この本を読みなさい。

ただし、上述のように「のだったら(んだったら)」の形は「～なら」と同じ意味で使います。

もう少し

◆さらに、「～たら」でも間違いではないが他の形式のほうがより自然な場合をまとめておきましょう。

- ① 前件に焦点のある条件文の場合、「～ば」がふさわしい
 - (3) だれに聞けば、田中さんの住所がわかるでしょうか。
- ② 後件が成立するための最低条件を表す場合、「～ば」がふさわしい
 - (4) お金さえ払えば、だれでも入会できる。
- ③ 反事実的条件を表す場合、「～ば」がふさわしい
 - (5) あと10分早く出れば、バスに間に合ったのに。
- ④ 恒常的・一般的な条件の場合、「～ば」または「～と」がふさわしい
 - (6) 駅から近ければ、便利です。
 - (7) 春になると、観光客が増えます。

なお、①～③の場合、「～と」は使えません。

- (8) ?だれに聞くと、田中さんの住所がわかるでしょうか。
- (9) ×お金さえ払うと、だれでも入会できる。
- (10) ?あと10分早く出ると、バスに間に合ったのに。

◆以上が4形式の基本的な使い分けですが、関西方言では「～たら」がよく使われるなど方言差もあるので、注意が必要です(→コラム「ことばのゆれ」)。

6. すると、それなら、それでは、では

- (1) 窓を開けた。すると、涼しい風が入ってきた。
(2) 窓を開けた。すると、知らない男が立っていた。
(3) A: スーパーに行ってくるよ。
B: それなら、しょうゆを買ってきて。

これだけは

◆上のような接続詞は形からわかるように意味の上で条件に連続するものです。それぞれ、下のような条件文との平行性を考えれば、意味がつかみやすいでしょう。

- (1)' 窓を開けると、涼しい風が入ってきた。
(2)' 窓を開けると、知らない男が立っていた。
(3)' スーパーに行くなら、しょうゆを買ってきて。

(1)(2)の「すると」は、前件のことがらが契機となって後件のことがらが起こった、または後件のことがらを見出したという関係を、(3)の「それなら」は、前件のことがらを前提に話し手が導き出した帰結を後件に述べるという関係を表しています。

もう少し

◆しかし、上に述べた接続詞と条件文の平行関係が常に成り立つわけではなく、接続詞にしかない用法もあります。「それなら」は、「～なら」の条件文と違って、後の文が疑問文の場合にも使えます。

- (4) A: お金は持っていないだ。
B: それなら、カードは持ってる？

◆「それなら」に似た接続詞に「それでは（では、じゃ）」があります。置き換えられる場合が多いですが、次のような場面や話題を転換する用法は

「それなら」にはありません。

- (5) それでは、会議を始めます。
(6) (別れるとき) じゃ、またね。

もう一步進んでみると

◆条件の表現に関する研究は数多くあります。以上見てきた「～と・～ば・～たら・～なら」の用法について簡潔にまとめたものとしては、寺村秀夫(1981)、益岡隆志(1993)、前田直子(1995)などが参考になります。

◆条件を表す形式はこの4形式だけではありません。「とすれば、としたら、とすると」など複合形式の他、普通は条件と呼ばれなくても条件とのかかわりが深く連続性が見られる形式がいろいろあります。例えば、次のような文は条件文に非常に近いものです。

- (1) 雨が降った場合は、ハイキングは中止です。
(2) 困ったときは、いつでも連絡してください。
(3) わからないことがある人は、手を挙げてください。

その他、作文の際に条件との使い分けの関連が出てくる表現は、理由、譲歩、時間などいろいろな意味分野にわたります。

以上のような様々な問題については中上級編で扱います。

参考文献

- 寺村秀夫(1981)『日本語教育指導参考書5 日本語の文法(下)』大蔵省印刷局
前田直子(1995)「バ、ト、タラ、ナラー仮定条件を表す形式ー」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(下)』くろしお出版
益岡隆志(1993)「日本語の条件表現について」益岡隆志編『日本語の条件表現』くろしお出版